



自然遊学館 だより



ニホンイシガメ

2014年10月3日、木島小学校4年生の校外学習に呼ばれて、三ツ松大橋付近の近木川の河川敷に行った時に採集されたものです。甲羅の長さは38mmのあかちゃん、おなかには卵黄嚢のなごりである「おへそ」がありました。

2015 WINTER

No.74



2015.2.16 発行 貝塚市立自然遊学館

目 次

*ネイチャーレポート

近木川河口干潟再生地で見つかった

頭楯類 3 種 ……和田太一・山田浩二・濱谷巖… 1

貝塚市千石荘で確認された大阪府レッドリスト種

……………岩崎拓… 3

二色の浜でスナメリ漂着 ……山田浩二… 6

*行事レポート

虫と星の観察会Ⅰ、Ⅱ ……岩崎拓… 7

泉州下水道フェスティバル ……鈴子勝也… 8

生きもの切り絵製作会Ⅱ ……川村甚吉… 9

和泉葛城山ブナ林自然観察ハイキング

……………湯浅幸子… 10

自然を食すⅡ ……川村甚吉… 11

漂着物を調べよう！ ……山田浩二… 13

*泉州生きもの情報

サザンビーチ（泉南市）における

アカウミガメ上陸産卵 ……山田浩二… 14

テラニシアリツカコオロギ ……岩崎拓… 15

二色の浜で打ち上がっていたコメツブウニ

……………山田浩二… 16

*館長コーナー

生きものだいすき（その2） ……高橋寛幸… 17

*生きものがかり

遊学館で飼育している生きもの 1 ……鈴子勝也… 19

*調査速報

千石荘昆虫調査 2014 ……岩崎拓… 20

* 寄贈標本 …… 23

* スタッフ日誌 …… 23



ネイチャーレポート

近木川河口干潟再生地で見つかった頭楯類 3 種

2014 年 11 月 8 日に近木川河口右岸の干潟再生地（汽水ワンド）で底生生物調査を行っている際に、近木川河口では初めての記録になる 3 種の貝、ヘコミツラガイ科のマツシマコメツブ *Retusa (Decorifer) matsushima* (図 1) とコメツブガイ *Retusa (Decorifer) insignis* (図 2)、スイフガイ科のコメツブツラ *Acteocina decoratoides* (図 3) を採集しましたので紹介します。この 3 種は巻貝の頭楯（とうじゅん）類と呼ばれる仲間、殻から出てきた軟体の頭部が頭楯と呼ばれる楯のような形をしており、砂や泥に潜りやすいようになっています。今回見つかった 3 種はいずれも 5 mm 弱程度の大きさで、名前の通り米粒のような細長い殻をしています。

マツシマコメツブとコメツブガイは互いにとてもよく似ていますが、マツシマコメツブは螺塔があまり飛び出さず目立たないのに対し（図 1 矢印）、コメツブガイは螺塔がはっきりと飛び出しています（図 2 矢印）。また、マツシマコメツブの殻の方が少し太短いことなどで見分けられます。

マツシマコメツブは濱谷・入江（1984）の中で 1950 年代に岬町淡輪のアマモ帯で干潮線付近の砂中に無数に棲息していたことが記述されており、Hamatani（1962）でその卵塊やベリジャー幼生の形態についても詳しく記述されています。ところが淡輪のアマモ帯はその後埋め立てられてしまい、大阪府における近年の産出記録も

見つからなかったため、大阪府レッドリスト 2014 では本種は「絶滅」として選定されました（大阪生物多様性保全ネットワーク編、2014）。したがって今回の記録は絶滅種の再発見という貴重な記録です。これは近木川河口周辺や大阪湾のどこかに細々と個体群が生き残っており、その幼生が潮の流れに乗って干潟再生地に入ってきて成長したものではないかと考えています。

コメツブガイも大阪湾ではそれほど記録の多い貝ではありませんが、岡村・児島（1986）の明石沖の沖ノ瀬（潮下帯）での記録や、成ヶ島探見の会（2007）の兵庫県洲本市由良湾での死殻の記録などがあります。筆者の和田も 2014 年の 6 月から 7 月に阪南市尾崎から鳥取ノ荘の海岸に点在するアマモ帯や砂泥地を調査している際に本種の生貝を複数見つけていました。

もう 1 種のコメツブツラは殻が細長く、よく見ると体層の上端と下端にのみ螺溝が数本ずつ見られます（図 3 矢印）。今回の発見は近木川河口だけでなく大阪府においても初記録だと思われます。そして本種は全国的にも記録のごく少ない種であるようで、日本ベントス学会が日本の干潟に生息する底生生物の現状をまとめた「干潟の絶滅危惧動物図鑑」の中で「絶滅危惧Ⅱ類」に選定されています（福田、2012）。大阪湾周辺の記録としては徳島県の吉野川の干潟から報告されています（和田、2013）。

3 種とも殻から軟体を出して這い出すと、頭楯の後端が 2 つに分かれて伸びた様子がまるでウサギの耳のような可愛らしい姿

をしているのですが、今回の個体はいずれも採集時に弱ってしまったのか、殻口のところで軟体を中途半端に出した状態で固まって動かなくなっており、残念ながらその愛らしい姿は撮影できませんでした。

この近木川河口の干潟再生地ではこれまでも大阪府下で記録の少ないチゴイワガニ *Ilyograpsus nodulosus* が見つかるなど（山田，2014）、貴重な生物の発見が相次いでいます。今後も調査を通じて生物相がどのように変化していくのかを見守っていきたいと思います。

本稿を書くにあたり、児嶋 格氏には近木川河口や大阪湾の貝類の記録についてご教示いただきました。お礼申し上げます。

なお、この汽水ワンドの調査は大阪府岸和田土木事務所からの委託を受けて実施しています。

《採集個体データ》

マツシマコメツブ 2個体

殻長3.5mm、殻幅1.9mm

殻長3.2mm、殻幅1.8mm

コメツブガイ 1個体

殻長3.0mm、殻幅1.5mm

コメツブツララ 1個体

殻長4.3mm、殻幅2.0mm



図1. マツシマコメツブ



図2. コメツブガイ



図3. コメツブツララ

引用文献

- 大阪生物多様性保全ネットワーク編（2014）大阪府レッドリスト2014，大阪府環境農林水産部みどり・都市環境室みどり推進課，大阪。
- 岡村 親一郎・児嶋 格（1986）大阪湾の貝類Ⅲ－巻貝類の生息記録（その2）－。南紀生物，28（1）：59-65。
- 成ヶ島探見の会（2007）由良湾・成ヶ島の貝．成ヶ島探見の会，洲本。
- Hamatani, I. (1962) Notes on Veligers of Japanese Opisthobranchs (5). Publ. Seto Mar. biol. Lab., Vol. 10, No. 2

濱谷 巖・入江 千栄子 (1984) 1950年代の大阪湾南
東部沿岸における潮間帯動物の生態と分類に関
する研究. 自然史研究, 1(7).

福田 宏 (2012) コメツブツラ. in ベントス学会
編. 干潟の絶滅危惧動物図鑑-海岸ベントスのレ
ッドデータブック, 81. 東海大学出版会, 秦野.

山田 浩二 (2014) 近木川河口干潟再生地で採集さ
れたチゴイワガニ. 自然遊学館だより, 70: 2-3.

和田 太一 (2013) 徳島県吉野川の干潟で記録され
た底生生物相と河口域の生物多様性の保全. 徳
島県立博物館研究報告. 23: 87-111.

(和田太一¹・山田浩二²・濱谷 巖³)

¹NPO法人南港ウェットランドグループ

²貝塚市立自然遊学館 ³岸和田市

貝塚市千石荘で確認された 大阪府レッドリスト種

大阪府で生息が確認された動植物のうち、すでに絶滅した種や絶滅の危機にある種をリストアップした「大阪府レッドデータブック」は 2000 年に発行されました。そのリストが 2014 年に改訂されたので、これまで「自然遊学館だより」などで発表してきた絶滅危惧種に関する情報も、訂正する必要が生じました。特に千石荘で確認された大阪府レッドリスト種は、本誌 62 号と 69 号でリストを発表してきたので、今号に訂正・追加したリストを掲載します (表 1)。絶滅危惧 I 類が 2 種、絶滅危惧 II 類が 6 種となり、準絶滅危惧の 26 種を含めて、合計 34 種となりました。

これまでのリストにあって今回のリストでランク外になった種は、鳥類のササゴ

イ、オオバン、カワセミ、カワウ、ミサゴ、
ハイタカと、昆虫類のネキトンボ、コシロ
シタバ、クルマバッタです。実際に個体数
が回復したのか、探してみれば意外に多く
生息していたということだと思います。

逆にランク外から「昇格」してしまった種は、鳥類のヒバリとカシラダカ (図 1)、
昆虫類のナキイナゴ、キイトトンボ、セス
ジイトトンボ、カトリヤンマ、コフキトン
ボ、アキアカネ、ナツアカネ、ノシメトン
ボ (図 2)、ヒメアカネ、マイコアカネ、ド
ウガネブイブイ、ホソバセセリです。



図 1. カシラダカ
(2008 年 12 月 3 日、食野俊男さん撮影)



図 2. ノシメトンボ
(2012 年 7 月 31 日撮影)

表1. 貝塚市千石荘で確認された大阪府レッドリスト種
(大阪府レッドリスト2014改訂版に対応)

(貝塚市立自然遊学館作成：2014年12月31日)

グループ	種名	ランク
哺乳類	カヤネズミ	準絶滅危惧
鳥類	クイナ	準絶滅危惧
	ケリ	準絶滅危惧
	オオタカ	準絶滅危惧
	ノスリ	準絶滅危惧
	ヒバリ	準絶滅危惧
	トラツグミ	準絶滅危惧
	ホオアカ	準絶滅危惧
	カシラダカ	準絶滅危惧
爬虫類	タカチホヘビ	準絶滅危惧
昆虫類	ネアカヨシヤンマ	絶滅危惧Ⅱ類
	ナニワトンボ	絶滅危惧Ⅱ類
	ナキイナゴ	絶滅危惧Ⅱ類
	キイトンボ	準絶滅危惧
	ベニイトンボ	準絶滅危惧
	セスジイトンボ	準絶滅危惧
	マルタンヤンマ	準絶滅危惧
	カトリヤンマ	準絶滅危惧
	コフキトンボ	準絶滅危惧
	アキアカネ	準絶滅危惧
	ナツアカネ	準絶滅危惧
	ノシメトンボ	準絶滅危惧
	ヒメアカネ	準絶滅危惧
	マイコアカネ	準絶滅危惧
	ヤスマツアメンボ	準絶滅危惧
	ドウガネブイブイ	準絶滅危惧
	ホソバセセリ	準絶滅危惧
クモ類	コガネゲモ	準絶滅危惧
淡水産貝類	ヌマガイ	絶滅危惧Ⅱ類
陸産貝類	ウスイロシタラガイ	絶滅危惧Ⅱ類
植物	アンペライ	絶滅危惧Ⅰ類
	タヌキマメ	絶滅危惧Ⅰ類
	ギンラン	絶滅危惧Ⅱ類
	イヌタヌキモ	準絶滅危惧

絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危機が増大している種
準絶滅危惧 存続基盤が脆弱な種

その他、生物多様性ホットスポットとして、和泉市から泉南市にかけてのため池を含む地域が、「泉州ため池群」として、Bランクに指定されています。

Aランク 多様な生物種群の絶滅危惧種にとって重要な生息地
Bランク Aランクに準ずる生息地
Cランク 一部の絶滅危惧種にとって重要な生息地

「昇格組」にトンボ類が多いのは大阪府内での水辺環境の悪化を反映したものだと思います。千石荘でもトンボ類は減っています。また、ランク外からいきなり絶滅危惧Ⅱ類に引き上げられたナキイナゴの例は、草原環境の悪化を示しているのかもしれませんが。千石荘でも、ロータリーから大井谷池へ抜ける切通し周辺は、ナキイナゴの記録のあった1995年当時は、チガヤやコシダが目立つ明るい草むらだったのに、今は灌木、ネザサ、メダケに囲まれた暗い「道」になっています。

植物のギンラン(図3)は、2012年に行った上久保文貴先生との植物調査によって確認されたものです。陸産貝類のウスイロシタラガイ(図4)は、児嶋格先生の「かたつむり展」の報告書から引用しました(児嶋、2014)。



図3. ギンラン
(2014年5月8日、撮影)



図4. ウスイロシタラガイ
(2012年9月24日、撮影)
殻径が3mm程度の小さなカタツムリです

今回の大阪府レッドデータブックの改訂では、クモ類、海岸生物、コケ植物、菌類などのグループが新たに対象となり、千石荘のリストにコガネグモ(図5)が加わるようになりました。



図5. コガネグモ(メス亜成体)
(2013年5月30日、撮影)

鳥類のリストは、2005年以降毎年行ってきた冬のバードウォッチングの記録と、自然遊学館への寄贈画像から作成したものです。春から秋にかけての記録はほとんどなく、鳥に詳しい方からお叱りを受けるレベルのものかもしれません。また、クモ類と菌類のように本格的な調査を行っていないグループや、まったく調査していない

コケ植物も残されています。毎月調査を行っている昆虫でも、2014年の調査で初めてホソバセセリが見つかったりするので、今回の34種という種数から増える可能性は大いにあります。

最後に、今回の大阪府レッドデータブックの改定では、希少な種を含む、種の多様性が高い場所として、生物多様性ホットスポットが府内で55箇所、選定されています。貝塚市では、和泉葛城山がAランク、近木川河口と二色の浜がCランク、そして和泉市から泉南市にかけての泉州ため池群がBランクに指定されました(ランクに関しては、表1参照)。

牛神池、大井谷池、ボタン池、オサガ池などを含む千石荘一帯も生物多様性ホットスポットのBランクの対象になります。千石荘一帯で確認されている動植物の種数は、貝塚市全体の種数の4分の1から3分の1を占めます。貝塚市内で指定地域以外の場所が大切でないということはありませんが、少なくとも指定地域に関しては、生物種の多様性を維持しつつ、後世に伝えられることを望みます。

引用文献

児嶋格(2014) かたつむり展。貝塚の自然 16: 79-94.

(岩崎 拓)

二色の浜でのスナメリ漂着

2014年12月18日午後4時過ぎ、貝塚市立西小5年生の宇賀さんら2名が来館し、二色の浜にイルカのようなものが転がっているとの情報を寄せてくれました。現場を案内してもらい、クジラ目ネズミイルカ科のスナメリであることを確認し、写真撮影および計測を行いました。全長約135cm、体表に直径2〜3センチの穴が10個程開いていました。とりあえず、波に流されないよう、発見した子供たちと協力してロープをくくりつけ、10mほど引きずり高所へ移動させ、埋めました。

翌日、須磨海浜水族園の中村さん、和食さんが来られ、スナメリのサンプルとして表皮の一部と頭部を採取し、持ち帰られました。あとの残部は不要とのことで、再び埋め戻しました。年が明けて、1月9日には大阪市立自然史博物館の和田さん、米澤さんが、残った胴体部を骨格標本として残すために回収に来られました。



二色の浜に打ち上がったスナメリ

発見者：貝塚市立西小学校5年生
宇賀天海・新谷幸太・広瀬一進・黒崎裕太（敬称略）

12月22日の朝日新聞朝刊には、今回のスナメリ漂着の記事が掲載されました。

貝塚市でのスナメリ死体の漂着は、2007年3月にも近木川河口右岸前浜で見つかり、その時の個体は全身骨格標本として残り、当館の展示の目玉の一つとなっています。2014年10月には岸和田カンカンベイサイドモール横の湾内で、スナメリの来遊が目撃されたように、大阪湾でも少ないながら生息しているのです。



二色の浜に打ち上がったスナメリ死体 2014年12月18日

(山田 浩二)

行事レポート

虫と星の観察会Ⅰ、Ⅱ

日時：2014年10月3日(土) 18:00～20:00

場所：自然遊学館、市民の森

参加者：14人

昨年度から善兵衛ランドと共催で「鳴く虫の声を聞き、星を観察する」行事を始めました。昨年の2013年は善兵衛ランドでの観察会が先で、自然遊学館での観察会は10月下旬に行いましたが、鳴く虫の声がすでに少なくなっていました。そこで今年は自然遊学館での日程を先にして、10月上旬にしました。しかし、接近しつつある台風18号の影響で、鳴く虫も月と星もうまく観察できませんでした。

鳴く虫の方は、風が草や木の葉をゆらす音でアオマツムシ以外の鳴き声がかき消されて、結局、エンマコオロギ、シバズ、カネタタキの4種しか鳴き声を聞くことができませんでした。その他、参加者の方がホシササキリとオンブバッタを採集しました。館に戻ってから、あらかじめ採集しておいたアオマツムシ、エンマコオロギ、ハラオカメコオロギ、シバズを見てもらいました。



図1. アオマツムシ成虫
(二色市民の森、2014年10月1日採集)

それから2階のテラスに行き、善兵衛ランドから持ち込んだ望遠鏡で月を見ました。絹のような雲がかかっていたましたが、何とかクレーターを見ることができました。

その後、多目的室で、善兵衛ランドの森哲裕館長から「ステラナビゲーション9」というソフトなどを使用して、月の運行や満ち欠け、夏の大三角形とその構成星、星座、南斗六星、南の魚座、10月8日の月食の話を聞きました(図2)。月から見える地球(地球照)という視点が面白く、それによって太陽光が当たっていない部分のクレーターが見えることや、皆既月食が赤黒く見えるという説明が納得いきました。



図2. 月齢の説明をする森哲裕館長(右)

日時：10月18日(土) 18:00～20:00

場所：善兵衛ランド

参加者：20人

自然遊学館スタッフが善兵衛ランドに伺い、貝塚市のバッタ・コオロギ・キリギリスの紹介とそれぞれのグループの鳴き方の説明をしました。今回は、自然遊学館が撮影した動画のほかに、「虫の音ワール

ド (<http://mushinone.sakura.ne.jp/>)」
というサイトからダウンロードした鳴き
声も聞いてもらいました。

1 週間前よりかなり寒くなり、善兵衛ラ
ンド周辺で実際に鳴き声を聞くことがで
きたのは、マツムシとハラオカメコオロギ
だけでした。寂しい鳴く虫の声を聞く会で
したが、澤田夫妻が捕虫網を使って、ツチ
イナゴ、ツヅレサセコオロギ、ウラナミシ
ジミ、ゲジなどを捕まえてくれて、ピンチ
をしのぐことが出来ました。

写真は澤田夫妻が採集してくれたクマ
スズムシです (図 3)。参加者に見せるタイ
ミングを逸してしまったので、ここに掲載
します。何となく熊に似ていますか？それ
ほど見る機会が多いとは言えない種です。



図 3. クマスズムシのメス成虫

続いて、善兵衛ランド 2 階のテラスに集
まり、森哲裕館長から星まで光が届くかと思
われるサーチライトを使って、夏の大三
角形をはじめ、星と星座を説明していただ
きました。最後に、望遠鏡で光り輝く星々
を見せていただいて、解散となりました。

(岩崎 拓)

泉州下水道フェスティバル

日時：2014 年 10 月 18 日(土)9:30～12:30

場所：中部水みらいセンター

貝塚市二色南町にある中部水みらいセ
ンターから依頼を受け、貝塚市立自然遊学
館ときしわだ自然資料館とで一緒に協力
して、チリメンモンスター探しをすること
になりました。

当日は、自然遊学館から 3 名がスタッ
フとして加わり、約 110 名の参加者が来て
くれました。行事内容は中部水みらいセン
ターの見学とチリモン体験です。中部水み
らいセンターでは、家庭などで使った水を中
部水みらいセンターに運び水をきれいに
して、再利用や大阪湾への放流などをして
います。

チリメンモンスターは、みなさんが食べ
たことがある、ちりめんじゃこの中に潜ん
でいるいろんな生きもののことです。ちり
めんじゃことは、カタクチイワシの稚魚の
ことをいいます。その中から、違う魚仲間
やカニ・エビなどのさまざまな生きものを
さがしてもらいました。今回のちりめんじ
ゃこは、2014 年度に大阪湾 9 月～10 月で
収穫したものを使いました。

採集の時にピンセットを使い、生きもの
をつぶれないよう慎重に取り出してもら
い、お気に入りの生きものなどはキーホル
ダーに貼り付けて持ち帰ってもらいまし
た。

今回見つかった生きものは、魚の仲間が
25 種類、その他の生きものが 19 種類、合
計 44 種類でした。



チリモン体験の風景

(鈴子 勝也)

初めての方が選んだのは、イシダイ、スイレン、カラスウリ、カメ、ツクシでした。特にツクシは細かい部分が多く難しい作品でしたが、几帳面にしかも割合手早く進めていきました。

スイレンは他にも2人製作しました。エビも2人、アサギマダラも2人、イシガニ、タケはそれぞれ1人ずつ取り組みました。

私語も全くなくみんな真剣勝負のようです。時々製作状況を見て、手助けすることも心準備があったのですが、要らぬおせっかいであったようです。

生きもの切り絵製作会Ⅱ

日時 2014年10月26日(日)13:30～16:00

場所 自然遊学館多目的室

参加 初めて 6人(うち子ども2人)

経験 9人

指導 川村・岩崎

目的 自然物をよく観察し、観察をもとに切り絵にする

活動概要

自分で作ってみたい作品のモデルを見つけ、そのコピーを貼ってはがせるスプレーのりで接着し、カッターナイフで切りとっていきます。



製作風景

目標は、「自然物をよく観察し、観察をもとに切り絵にする」と設定しておりますように、自然物をよく見なくては製作できません。観察は切り絵のすべてと言ってよいほどです。また、苦勞して切った作品の元の名も知らなくてはなりません。自分が直接切らなくても周りにいる人の作品を見て、自然物に対する名前と様子など知ってくれたら大きな学習成果になります。本日の学習成果がよくわかるように集合写真を撮り、簡単な合評会をしておしまいにしました。



製作風景



全製作者の集合写真

(川村 甚吉)

和泉葛城山ブナ林 自然観察ハイキング

日時：2014年11月15日(土)9:00～16:00

場所：和泉葛城山

参加者：58人

大阪みどりのトラスト協会は、和泉葛城山のブナ林保全活動を行っています。和泉葛城山のブナ林は、大正12年に国の天然記念物に指定されています。今年も岸和田市、貝塚市とともにブナ林の観察ハイキングの企画があり、自然遊学館から4名参加しました。

南海本線岸和田駅集合、蕎原バス停留所までバスで移動。登りはAコース、下りはBコース、途中から岸和田側へ向かい塔原バス停留所、そこからバスで岸和田駅、解散、というコースです。

まずは、Aコース登り口の春日橋まで移動しましたが、時々車が通るためゆっくり植物を見たりなどは、できませんでした。

春日橋では、トイレ休憩、スタッフ紹介、

コース説明などがあり、登山前の準備運動もしました。

お天気もよく、ゆっくり紅葉を楽しみながら登って行きました。崖にはイワタバコがたくさん生え、ところどころヤマアジサイの花のなごりも見ることができました。白糸の滝で休憩をとり、さらに進むとブナが見えました。

木道を行くとデッキがあり、そこでブナの落葉を拾って、講師の田中正視先生がブナの説明、ミヤマシキミの葉が匂う話などをしてくださいました。ミヤマシキミは赤い実をつけていて綺麗でした（実は有毒）。



ミヤマシキミ

最後の難関、山頂の神社の階段を上ると昼食です。豚汁も参加者に配られました。

「今回、参加費は無料ですが、できればトラスト協会へ環境保護の寄付をしていただければ」との呼び掛けに、みんな快く寄付をしてくださり、ブナの葉の形のピンバッチをもらいました。

昨年、アキグミの実がたくさんついて、みんなで味見をしたのですが、今年はほとんど実がついていませんでした。また、ケンポナシもあまり落ちていませんでした。ケンポナシは変わった植物で、果実を食べ

るのではなくて、花の軸が肥大した部分が甘くおいしく食べられるようになります。

帰りのBコースを少し降りた所にアズサという樹があり、田中先生から、葉がサロメチールの臭いがするとの説明がありました。

下りはみんな早いペースで降り、途中休憩した枇杷平では、ウラジロノキの赤い実がたくさん落ちていました。

ほとんどの方が予定通りの時間でバスに乗ることができ、無事終了できました。

(湯浅 幸子)

自然を食すⅡ

日時 2014年11月23日(日)12:00～14:00

場所 自然遊学館多目的室

参加者 11人 + スタッフ4人

指導 栗山 昭

目的 秋の自然からの恵みに感謝し、味わいながら自然の食べ物について学ぶ

メニュー

ムカゴごはん

すりおろし自然薯の団子みそ汁

天ぷら (柿の実、シイタケ、イワシ)

クマザサ茶、柿の葉茶

ドングリケーキ

活動の様子

本日のメニューから天ぷらの中身が次の写真です。この時期は野草が大変少なく、モミジの葉やシイタケ、柿のみに限定しました。



おかずの天ぷら

活動の初めに本企画直近に9人もキャンセルが出たのです。これは企画側としては残念な限りです。一人でも多くの市民の方々と、準備したり、段取りを考えたりしたのに、半数近くのキャンセルは応えませんでした。



空き空間が大きかった会場

当日に当然定員通りの材料を用意していました。キャンセルが多くても少なくても準備は同じようにしなければならないので、公費による活動には不向きだと感じました。また、キャンセルはできるだけ避けたいと感じました。

人数が少ないことが逆に活動を盛り上げたようです。何杯もおかわりしたり、気さくに質問したり、笑いの絶えない学習になりました。



説明する栗山講師



和気あいあいの活動

実習としてドングリケーキづくりをしました。市民の森にたくさんありますマテバシイのドングリを使います。9月の初めころから台風などの風の強い日に目をつけ、犬の散歩のしない場所で採集します。小さなバケツ1杯くらい拾います。丁寧に洗って乾燥し、金づちで1つ1つ中身を取り出します。それにタンサンを加えて何回もあく抜きします。再び乾燥させ製粉機にかけてドングリ粉は出来上がりです。

それにホットケーキミックスを加えそれだけでドングリケーキに焼き上げるわけです。

毎年これは好評で食事もしたあとなのにかなりの量のケーキを食べます。



ほぼ出来上がりのドングリケーキ

最後に感想など気付いたことを紙に書いて頂き本日の活動を終了しました。本活動担当の川村が体調を崩し、こうした報告しかできなかったことをお許し下さい。

アンケートの回答

- ・今日は自然の品物を使っでの食事でした。普段いただくことのない珍しいものを食することができ、感激致しました。山の恵みをいただきました。ありがとうございました。
- ・むかごご飯—もちもちして少し甘味もあり、おいしかったです。みそ汁—具もトロツとして柔らかく、とてもおいしかった。ドングリクッキー—初めて食べました。アクの抜き方も教えて頂きありがとうございました。
- ・柿の天ぶらを一度挑戦したいと思っています。全部おいしかったです。ドングリクッキーも絶品でした。
- ・むかごご飯を初めて頂きました。とても美味しかったです。どんぐりのクッキーも甘味があって、もちもち感もあり美味しかったです。すごく手間が掛かりますが、一度やってみようと思います。今日はありがとうございました。
- ・たのしかった。おいしかった。(かなと)
- ・おいしくて、自宅でも作ってみたいと思いました。もみじとどんぐりも初めて食べることができて嬉しかったです。おみそ汁もほっぺが落ち

るほど美味しかったです。自然の物を食べると、体が喜んでいく感じがしました。

- ・いつもお世話をおかけして申し訳ありません。楽しく参加させて頂いております。だんご汁のだんごに山いもが入っていて美味しくて参考にさせていただきます。柿の天ぷらも初体験です。どんぐり入りのホットケーキも素朴な味がして、子供のおやつにも大人の話にも参考になります。ほんとうにありがとうございました。次回が楽しみです。
- ・以前、春の「自然を食す」に参加し、秋は今回が初めてでした。どんな野山の幸が供されるかわくわくでした。期待通り、もみじをはじめ、むかごや柿など、すべてが美味しく調理されていました。ドングリは実に30年以上ぶりにいただきました。また家族で楽しく参加できればと思います。ありがとうございました。
- ・自然の食材をていねいに摂取し、おいしく頂くことができ、とても幸せを感じました。いつもお世話してくださり、ありがとうございます。自ねんじょは、この講座ではじめてたべることができ、家族にも食べさせてあげたいと思いました。
- ・すぐくもみじがおいしかったです。どんぐりのクッキーもおいしかったです。どんぐりがたべれてすごくびっくりしました。いわしもありかりしておいしかったです。(辻 大機)
- ・柿の天ぷら、おいしかったです！ インドネシアを旅行したときに食べた焼き(天ぷら)バナナを思い出しました。「～を食べる」シリーズ、いつも楽しみにしているんです。(辻 佐和)

(川村 甚吉)

漂着物を調べよう！

日時：12月6日(土) 10:00～12:00

場所：二色の浜

参加者：12人

12月に入っただけだということに、真冬並みの寒さと強い北西風の吹く中、敢行しました。二色の浜での漂着物といえば、やはり大阪の街を背後に抱えるだけあって、普段からペットボトルやプラスチックの日用品などの人工物のゴミが目につきます。実際に海辺の砂浜に打ち上がった漂着物にはどんなものがあるのか調べようということで、拾った漂着物の種類を4つのグループ(街から来た人工物・海から来た人工物・陸から来た自然物・海から来た自然物)に分けることにしました。

浜辺にしゃがみこんで、漂着物をあさっていると、あまりの冷たい風に手がふるえてままならない状況でした。とにかく歩き回って寒さをまぎらわせながら、拾い集めるといった状況でした。



漂着物を4つのグループに仕分け

拾い集めてみた結果、やはり一番多く集まったグループは街から来た人工物でし

た。靴やサンダル、ボール各種のほか、椅子やパイロンなどの大きなものもありました。次いで多いのは、陸から来た自然物である流木のようなものでした。海から来た自然物は、量（体積）的にはそんなに多くないのですが、貝殻など多くの種類が集まりました。下の表に、本日、拾い集めた漂着物の種類を示しました。



海から来た自然物

二色の浜の漂着物 2014年12月6日

街から来た人工物

ペットボトル、プラスチック容器、靴、サンダル、ゴルフボール、テニスボール、サッカーボール、虫かご、ライター、タバコの吸い殻、葉、椅子、紙パック、パイロン、レジンペレット

海から来た人工物

ルアー、ロープ、漁網、浮き、養殖部材、漁旗

陸から来た自然物

流木、ドングリ、オニグルミ、オニビシ、みかん、マツボックリ、梅干しの種、ブロッコリー、スクミリンゴガイ、ミシシippアカミミガメ

海から来た自然物

貝殻（ツメタガイ、ハツユキダカラ、リスガイ、ヤツシロガイ、バカガイ、アサリ、ウチムラサキ、イソシジミ、マガキ、コウイカ類の甲）、ウミケムシ、コメツブウニ、マヒトデ、モミジガイ、ヒイラギ など

(山田 浩二)

泉州生きもの情報

サザンビーチ（泉南市）におけるアカウミガメ上陸産卵

泉南市りんくう南浜にある海水浴場「タイルイサザンビーチ」の砂浜で、2014年7月17日にアカウミガメの上陸産卵がありました。それから53日後にあたる9月10日夜にふ化し、子ガメたちが海へ旅立ちました。この場所でのアカウミガメの誕生は4年ぶりということで、いろいろな新聞、テレビで紹介されました。

泉南市でのアカウミガメ担当である産業観光課より今回の産卵からふ化までの記録と画像を頂きましたので、ここで簡単に紹介します。市をあげて子ガメの誕生、保護に尽力されている様子が伺えます。

〔7月17日〕

上陸が確認されたのを受け、産卵場所の周囲に保護フェンスの設置。



〔7月19日〕

産み落とされた卵の確認を NP0 法人日本ウミガメ協議会の方と行い、地中に温度計を設置。



〔8月24日、9月3日〕

地中温度の検温、ふ化日の予測

〔9月9日〕

ふ化予定日が間近に迫ってきたので、子ガメが安全に海へと向かうようにウミガメロードの設置。



〔9月10日〕

夜7時半頃、ふ化を終えた子ガメたちが砂中からの脱出し、海へと旅立つのを確認。



〔9月13日〕

産卵場所を掘り返して、殻を数える等のふ化状況の調査。



母ガメは計148個産卵しており、そのうち140個がふ化（ふ化率94%）し、139匹の子ガメが巣立ちました。1匹は砂の中で死んでいるのが見つかりました。

環境省のレッドデータブック2014では、アカウミガメは絶滅危惧ⅠB類に選定され、「近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの」とされています。大阪の海岸では時折、アカウミガメの死体が打ち上がりますが、その多くが漁業による溺死と考えられています。泉州の海岸で産まれた希少な子ガメたちが、大きくなってまた故郷に戻ってきてくれればいいですね。

情報・画像提供

水田好彦氏（泉南市産業観光課）、田中正視氏、
鈴子佐幸氏

（山田 浩二）

テラニシアリツカコオロギ

2014年10月15日、自然遊学館の裏にある自然生態園「ドングリの森」で、ふと石をめくると、アリツカコオロギの成虫が付いていました。ふと何の気なしにだったので、採集する道具も容器も持っていません。慌てて、写真を2枚撮っただけで逃げられ

てしまいました。巣のアリの種はトビイロケアリでした。

10月17日に3回、採集に挑戦しました。うち1回は成虫を見ましたが、石ごとバケツに入れようとした時に、逃げられてしまいました。うち2回は幼虫だったので採集しませんでした。幼虫では種類が分かりません。

10月18日、善兵衛ランドでの虫と星の観察会で見てもらえるかなと出発前に思い立ち、今度は筆と容器を持って採集に行きました。結局、石に付いているアリツカコオロギは、筆で容器に払い落とすのがいいことが分かりました。メス成虫を2匹捕まえることができました。うち1匹を観察会で見てもらいました。



図1. テラニシアリツカコオロギのメス成虫
(体長 2.7mm)

本誌 67 号で、2013 年 2 月 13 日に近木川河口の汽水ワンド北側斜面のトビイロシワアリの巣でサトアリツカコオロギ *Myrmecophilus tetramorii* を採集したことを報告しました。今回採ったものは、それよりもやや大きく、体色も濃く、前胸の形、アリの種も違います。「バッタ・コオ

ロギ・キリギリス大図鑑」(市川ほか、2006)を見ると、テラニシアリツカコオロギ *M. teranishii* が該当します。

前回も書きましたが、アリツカコオロギの仲間は、アリの巣に居候して、アリを騙してアリから餌をもらったり、アリの食べ残しを頂戴します。そのような仲間の貝塚産リストが2種になり、バッタ目全体では101種目となりました。

引用文献

市川顕彦・伊藤ふくお・加納康嗣・河合正人・富永修・村井貴史編著 (2006) 「バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑」、687pp.、北海道大学出版会。

(岩崎 拓)

二色の浜で打ち上がっていた コメツブウニ

2014 年 12 月 6 日、二色の浜で行った「漂着物を調べよう！」の観察会で、ウニの仲間のコメツブウニ *Fibulariella acuta* を2個体採集しました(図1)。小さなレジンペレットをいくつか收拾しようと目を凝らしていたところ、ほぼ同サイズのウニの仲間が打ち上がっているのを見つけました。館に持ち帰り、図鑑で調べると、コメツブウニと分かりました。これまで二色の浜では記録されていない種です。

本種はウニ綱タコノマクラ目カシパン亜目マメウニ科に属する微小ウニの一種で、成長しても直径(長径)1cm以下です。

白色で外形は両端の尖った米粒形をしており、コメツブウニという和名がピッタリです。ただ、このグループは棘が微小で一般的なウニのイメージとは異なっていますが。分布は相模湾以南の上部陸棚帯と呼ばれる比較的浅い海域に生息することと、そこから死んだ殻が海辺に打ち上がってきたようです。



図 1. コメツブウニ（左：背面、右：腹面）
二色の浜で打ち上がった裸殻

殻をよく観察すると、図 1 の画像にあるように背面には小さな穴が点々とあり、不明瞭ですが花紋のように並んでいます。また、腹面は中央に口部の穴が開いており、その下側に囲肛部と呼ばれる肛門の穴が開いています。

《採集個体データ》

A：長径 4.7 mm、短径 3.6 mm

B：長径 4.8 mm、短径 3.4 mm

これまで二色の浜での漂着物の観察会等で確認されなかったのは、この小さなサイズのため見落とされていた可能性があります。今後は本種の有無も念頭に置いて調べていきたいと思います。

参考文献

西村三郎 編著（1995）『原色検索日本海岸動物図鑑〔Ⅱ〕』、保育社、663pp.

（山田 浩二）

館長コーナー

生きものだいすき（その 2）



第 2 回生きもの似顔絵コンテスト会場



会場（多目的室）内の様子



投票所

第2回生きものの似顔絵コンテスト中間発表

前回の館長コーナーで、生きもののだいき『第2回生きものの似顔絵コンテスト』の呼びかけを行いましたところ、2月1日現在で100名近くの方の投票がありました。2月1日までのベスト10中間発表です。

順位	作品番号	順位	作品番号
1	136	6	5
2	116	6	10
2	153	6	28
4	2	6	71
4	106	6	92

第2回生きものの似顔絵コンテスト中間発表



中間発表 2位 の作品



中間発表 2位 の作品

投票締め切りは2月15日(日)

この『遊学館だより』が発行される頃には最終結果が報告されていることだと思います。期間中に来館され、投票していただいた皆様、是非お越しいただき、結果をご覧ください。

また、作品を投函していただいた皆様、並びに投票してくださいました皆様、ありがとうございました。御礼申し上げます。

遊学館の館報第1号発行のお知らせ

第1号発刊を記念して一言ご挨拶

平成5年の秋、貝塚の自然を紹介する施設として生まれた自然遊学館は平成25年で20年以上の歳月を過ごしてきました。

自然遊学館が20年間に収集した標本や展示物は膨大な量になりました。これらの



中間発表 1位 の作品

標本や展示物は主に1階に並んでいます。

館の入口から順に大阪湾、近木川、和泉葛城山と、続くように色々な剥製や展示物が配置され、訪れた人々に貝塚の海から山に至る自然生態がわかるように工夫されて配置されています。

展示物には生きものの飼育水槽や飼育箱があります。この生体展示を見ると、訪れた多くの方は驚きと感嘆の声をあげ、リピーターとなって友達や家族を誘って訪れて下さっています。

館内には、どちらかというと大きな展示物は少なく、小ぶりの生きものや剥製が並んでいます。来館者の皆様に与える影響はかなり大きなものであると自負しています。

開館当時、自然遊学館の2階にはレストランがありましたが、現在では2階倉庫として活用され、この倉庫に多くのものが収納されています。

さて、自然遊学館では開館20年を過ぎた新しい試みとして、報告書『貝塚の自然』とは別に自然遊学館の『館報』を2013年(平成25年)度分から発行することになりました。従来からの『貝塚の自然』を貝塚の生きものに関する資料集・記録集・報告書とするなら、『館報』は遊学館の出来事や行事などの事務報告・事業報告という形になると思います。一年間の思い出を綴った文集というような形式で、皆様に自然遊学館の一年をお届けできたら、と考えています。

今回、第1号館報が発行されることになり、準備に追われています。

今後とも皆様の更なるご支援とご理

解・ご協力をいただく事で、自然遊学館は小さな博物館としてますます発展していくことと思います。皆様から熱いご声援をいただけるよう職員一同頑張ってます。

尚、館報第1号の発行は3月の予定です。

(高橋 寛幸)

生きものがかり

遊学館で飼育している生きもの1

貝塚市立自然遊学館の水槽のメンテナンス作業などを担当している、鈴子勝也と言います。m(._.)m

自然遊学館では、貝塚市に住んでいる生きもの約70種を飼育しています。調査で発見した生きもの、来館者から寄贈してもらった生きものなどがいます。調査で見つかった魚類や甲殻類は、水槽の温度調節などをしながら、自然の中で生きていた環境に近いように飼育しています。また、水質を保つためにガラスみがきやフィルター掃除、石や砂利などの汚れをとり除く作業をしています(図1)。



図1. 水槽メンテナンス作業

来館者から寄贈してもらった生きものは、貝塚市以外の生きものも含まれており、飼育したことのない生きものが来たりするので、環境状態が分からない生きものが来ることもあります。生態や何が主食かを調べて、工夫しながら飼育しています。今年度に寄贈してもらった生きものの中で一番印象が強かった生きものはアンフューマです(図2)。ウナギのような体をしていますが、イモリの仲間で、手や足などもしっかりとついています。人間のようにあくびをしたり、のほほんとした顔をしていますが魚などをあげると大きな口で丸のみにして食べてしまいます。



図2. アンフューマ

(鈴子 勝也)

調査速報

千石荘昆虫調査 2014

貝塚市千石荘において 2014 年 4 月から 12 月までの各月に 1 回ずつ 3 時間程度の昆虫調査(ルートセンサス・任意調査)を行いました。その結果、および 2005-06 年、

2011-13 年の結果との比較を以下に記します。

1. 大阪府レッドリスト種

2014 年の調査では、大阪府レッドデータブック指定種として、絶滅危惧Ⅱ類のナニワトンボ(図1)と、準絶滅危惧のベニイトトンボ(図2)、キイトトンボ(図3)、ナツノツヅレサセコオロギ、ホソバセセリ(図4)を確認しました。

ナツノツヅレサセコオロギは鳴き声による確認で、自然遊学館にはまだ標本がありません(自然遊学館がある二色の市民の森公園でも、鳴き声は確認していますが、標本がないので、貝塚産バッタ目 101 種の中には含めていません)。

ホソバセセリはこれまで自然遊学館の貝塚市内の記録では、和泉葛城山山頂でしか確認されていませんでしたが、今回、千石荘でも確認することができました。幼虫の食草はススキなどのイネ科植物です。



図1. ナニワトンボ(み)
(トンボ目トンボ科、2014. 8. 12)
アンペライの先にとまって、
なわばりを見張っているところです



図2. ベニイトトンボ (♂)
(トンボ目イトトンボ科、2014. 7. 6)
アンペライにとまっているところ

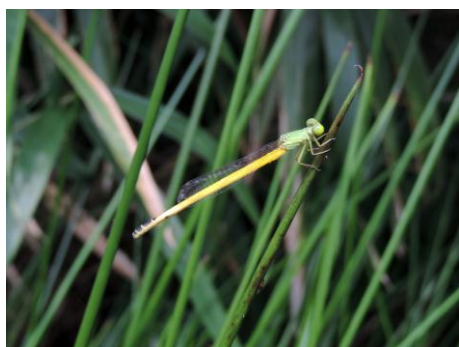


図3. キイトトンボ (♂)
(トンボ目イトトンボ科、2014. 8. 12)
アンペライにとまっているところ



図4. ホソバセセリ
(チョウ目セセリチョウ科、2014. 7. 6)
背景にフェンスが写っています

ボは、絶滅の危険性がより高い絶滅危惧Ⅱ類にランクアップされました。ベニイトトンボのランクは準絶滅危惧で変わりなく、キイトトンボ、ナツノツヅレサセコオロギ、ホソバセセリがランク外から準絶滅危惧に入りました。

2013 年までの調査で確認されたことがあり、ランク外から準絶滅危惧に入れられたアキアカネ、ナツアカネ、ノシメトンボは、2014 年の調査では確認されませんでした。

反対のケースとしては、改定前には準絶滅危惧に指定されていて、2012-13 年の調査で確認されていたコシロシタバは、2014 年の改訂でランク外になりました。

2. 私的注目種

あくまで暫定的なものです。今後も調査を続けて、千石荘の里山的環境の指標となるような種を選んでいきたいと考えています。

2014 年調査で確認された種は、カンタン、アミメクサカゲロウ (幼虫) (図 5)、カブトムシの 3 種です。アミメクサカゲロウの幼虫が背負っている白い綿毛のようなものは、アオバハゴロモの幼虫が分泌したもののようには見えますが、はっきりとは分かりません。

2000 年に作成された大阪府レッドデータブックは、2014 年に改訂され、それまで準絶滅危惧に指定されていたナニワトン



図5. アミメクサカゲロウの幼虫
(アミメカゲロウ目クサカゲロウ科、2014. 7. 6)
綿毛のようなものを背負っています



図6. ハゴロモヤドリガの幼虫
(チョウ目セミヤドリガ科、2014. 6. 7)
ブチヒシウンカの腹部に付着している白い塊

長期間、調査で確認されていない種としては、ショウリョウバッタモドキとオオキンカメムシが 2005 年、ヒラタクワガタが 2006 年以降となりますが、このうちヒラタクワガタは 2011 年に定期調査以外の日に確認されています。月に 1 回の調査では、正確な生息状況はなかなか分からないということです。

3. その他

これまで自然遊学館に標本がなく、今回の調査で採集された種は、クサビヨコバイ、ツヤケシハナカミキリ、スキバツリアブ、ハゴロモヤドリガ（幼虫）（図 6）、クロオビアツバです。ハゴロモヤドリガの幼虫はブチヒシウンカの腹部に寄生していたものです。ツヤケシハナカミキリもスキバツリアブも珍しい種ではなく、創館から 20 年以上経ってから確認されたことが不思議なくらいです。自然遊学館の貝塚産コレクションもまだまだということでしょうか。

最後に、2014 年調査の速報として紹介した種の確認日（月/日）を示しました。*印は幼虫、無印は成虫での確認です。

大阪府レッドリスト種

絶滅危惧Ⅱ類

ナニワトンボ 8/12、9/16

準絶滅危惧

ベニイトトンボ 7/6、8/12

キイトトンボ 6/7、7/6、8/12、9/16

ナツノツツレサセコオロギ 7/6

ホソバセセリ 7/6

私的注目種

カンタン 9/16、10/7

アミメクサカゲロウ 7/6*

カブトムシ（死体） 9/16

自然遊学館に標本がなかった種

クサビヨコバイ 7/6

ツヤケシハナカミキリ 5/8

スキバツリアブ 7/6

ハゴロモヤドリガ 6/7*

クロオビアツバ 8/12

（岩崎 拓）

寄贈標本

<植物>

- ◆川口博さんより
クヌギ 堅果 8 点
貝塚市二色 2014 年 11 月 1 日採集

<菌類>

- ◆渡辺久和さんより
キツネノタイマツ 幼菌 5 点
和泉市府中町 2014 年 10 月 25 日採集

<哺乳類>

- ◆宇賀天海・新谷幸太・広瀬一進・
黒崎裕太さんより
スナメリ 死体 1 点
貝塚市二色の浜 2014 年 12 月 18 日採集

<鳥類>

- ◆山口征一郎さんより
(同定依頼中) 死体 1 点
貝塚市近木 2014 年 10 月 7 日採集
- ◆木本ゆなさんより
シロハラ 死体 1 点
貝塚市二色 2014 年 10 月 24 日採集
(同定：和田太一さん)

<軟体動物>

- ◆佐々木仁さんより
ウスカワマイマイ黒化型 生体 1 点
貝塚市脇浜 2014 年 11 月 15 日採集

<昆虫>

- ◆中村ノリ子さんより
発音する蛾の蛹 1 点
ヤドリバエが羽化して、種名が分からず

2014 年 10 月 17 日、貝塚市二色

- ◆金田久代さんより
ルビーロウムシ 生体多数
貝塚市澤 2014 年 10 月 24 日採集
- ◆佐々木仁さんより
ミナミアオカメムシ 成虫 1 点
オオタコゾウムシ 成虫 1 点
貝塚市脇浜 2014 年 11 月 2 日採集
- ◆匿名希望さんより
アトラスオオカブト 成虫 1 点
飼育品

<寄贈写真>

- ◆秋武仁志さんより
イソヒヨドリ 2 枚
チョウトンボ 1 枚
貝塚市馬場 2014 年 8 月 29 日撮影
- ◆濱谷巖さんより
エビガラスズメ幼虫 6 枚
岸和田市別所町 2014 年 10 月 22 日撮影

スタッフ日誌

10 月 3 日、木島小学校 4 年生と三ツ松大橋で近木川の実習を行い、周辺の植物、川の生きもの、河原の石を調べました。魚は、オイカワ、カワムツ、ドンコ、カワヨシノボリ、タモロコ、タウナギの 6 種、その他、サワガニやヌマガエルも見ることができました。その時に採集された子どものイシガメは、自然遊学館で飼育展示しています(表紙の写真)。(浩・岩・湯)

10 月 14 日、前日に台風 19 号が岸和田市に上陸し浸水などの被害が出ているという

ニュースがあったので、休館日ですが心配になって見に来ると、館周りの小物もそれほど飛ばされていませんでした。前の週に潮岬沖を通過した台風 18 号の時の方が、小物の飛ばされ具合はひどいものでした（大物はロープで縛りつけていたので大丈夫でした）。二色の浜公園のサギのコロニーを見に行くと、ゴイサギの幼鳥が飛ぶ練習をしていて、ほっとしました。（岩）

10 月 17 日、二色に住む方が、ヤツデの葉についた蛾の蛹を持って来られました。その蛹から「カッチ、カッチ、・・・」と、時間を正確に刻むように音がします。その方は小型の時限爆弾の可能性も疑ったそうです。飼育して蛾の種類を特定しようと思ったのですが、ヤドリバエ（寄生バエ）が羽化してしまい、種が分からないままとなりました。「繭ハンドブック」（三田村敏正著、文一総合出版）にも載っていません。いまだに手がかりなしです。（岩）

11 月 16 日、葛城緑の少年団からの依頼を受けて、和泉葛城山クリーンハイキングに同行してきました。行事の関係で、私自身、2 日連続の葛城登山となり、肉体的に良い鍛練となりました。最近、神経痛がひざに出ることがあり、少し心配していましたが…。ブナ林の林道を歩くと、ここまで来たかという達成感と、澄んだおいしい空気が心身をリフレッシュさせてくれるのを感じます。（浩）

11 月 24 日、貝塚市歴史展示館で開催された「ふるさと知っとこフェア」（主催：貝

塚観光ボランティアガイド協会）で、当館のブースを出しました。汽水ワンドの生きもの、近木川の水質（貝塚市環境政策課作成）、千石荘の自然などを紹介するパネル、自然遊学館だよりの抜粋記事、自然遊学館の行事のビデオなどを展示しました。また、いつもお世話になっている大阪府海域美化安全協会から頂いた啓発グッズも配布しました。お天気も良く、前庭のステージでは様々な団体の演奏や、模擬店で賑わいました。（高・浩）

12 月 1 日、岬町にある大阪府栽培漁業センターまで海水をもらいに行きました。館のエントランスにある海水魚水槽の海水交換のためです。近くの海で海水を汲んでくることもありますが、栽培漁業センターの海水はよりきれいな海域で汲み上げ、かつ濾過されていますので手間がかかりません。お魚たちのために、少し遠いですが、年に 2 回程はもらいに伺わせてもらっています。（浩・鈴）

12 月 17 日～19 日、大阪府立泉鳥取高校から一年生の三木一輝さんが職業体験にきてくれました。水槽掃除や千石荘の樹木調査などで、弱音を吐かずに頑張ってくれました。（鈴）

お知らせ

特別展

「自然遊学館の2014年の出来事」

期間：2015年3月1日（日）

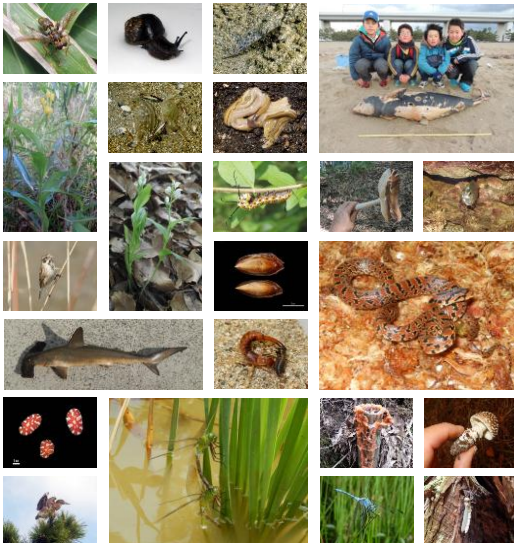
～3月30日（月）

場所：自然遊学館多目的室

2014年も、シロシュモクザメの死体の漂着、登山でのムカシトンボの羽化の観察、トンボの池の復活、キンランとギンランの観察、手乗りナニワトンボ、黒いカタツムリ事件、トビハゼの発見、スナメリの死体の漂着など、いろいろな出来事がありました。2014年に記録した貝塚市の自然や自然遊学館に関する出来事を写真、標本、スライドショーなどで振り返ります。

特別展 「2014年の自然遊学館の出来事」

～写真と標本で振り返る2014年の貝塚市の自然～



場所：貝塚市立自然遊学館多目的室
期間：2015年3月1日（日）～3月30日（月）まで
火曜日は休館日です

* 自然遊学館だよりのバックナンバーは、
下記のホームページよりご覧いただけます。

自然遊学館だより 2015 冬号（No. 74）

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel. 072 (431) 8457

Fax. 072 (431) 8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.lg.jp

<http://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/>

発行日 2015. 2. 16

この小冊子は市内印刷で作成しています。